



RAKUWA
lecture of health

第89回 らくわ健康教室

2012年3月9日



心房細動による 脳梗塞の予防

洛和会音羽病院
高次脳機能障害センター 所長 いのただし 猪野 正志



子どもたちのために、未来へ…

洛和会ヘルスケアシステム[®]

洛和会丸太町病院 洛和会音羽病院
洛和会音羽記念病院 洛和会みささぎ病院



RAKUWA
lecture of health

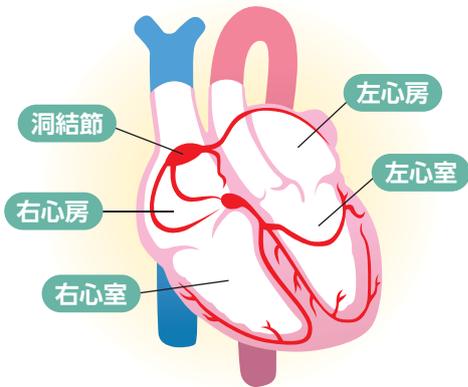
第89回 らくわ健康教室 2012年3月9日

心房細動による脳梗塞の予防

「心房細動」という病気をご存じですか？

心臓は、左右の心房と心室の4つの部屋に分かれており、これらが連携して規則正しい拍動を繰り返すことで、全身に血液を送るポンプの役割をしています。

心臓は「洞結節」と呼ばれるところから発せられる電気信号によってコントロールされていて、電気信号が特殊な線維を通して心臓全体に伝わることで、規則正しく拍動します。



「心房細動」は不整脈の一種で、心房部分がけいれんするように震えて、規則正しい拍動ができなくなった状態のことをいいます。高齢者に起こりやすい病気で、超高齢社会を迎えた今、患者数は増え続けています。



心房細動の原因

心臓に病気のある人だけでなく、ストレスや不規則な生活習慣によっても起こります。また、加齢やほかの病気（高血圧、糖尿病など）の合併症など、さまざまな原因が考えられます。

心房細動の症状

- 動悸（脈のバラバラ感）
- 息切れ、呼吸困難
- 疲労感
- 胸の痛みや不快感
- めまい、ふらつき



ただし、無症状のことが多く、定期健診の心電図検査などで初めて心房細動が見つかる場合もあります。

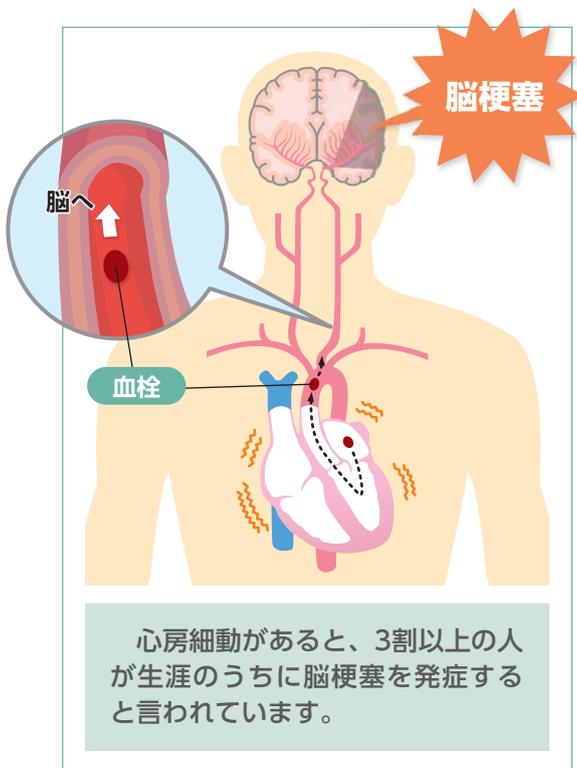
心房細動はなぜ怖いのでしょうか？

心房細動そのものは、ただちに命を脅かすものではありません。しかし、心房細動があると心房内の血の流れが乱れたり、血液がうっ滞したりして、血栓（血のかたまり）ができやすくなります。

この血栓が心臓から飛び出し、脳の血管を詰まらせると、脳梗塞を起こします。



心臓にできた血栓が原因で起きる脳梗塞を「心原性脳塞栓症」といいますが、これは重症であることが多く、心房細動の患者さまは、脳を守ることが大切です。



脳卒中は、寝たきりになる最大の原因であり、要介護の最大の原因でもあります。また、一般的に脳卒中の方の入院期間は長いので、医療費の負担増につながります。

確定診断された脳卒中のうち、約75%が脳梗塞であり、脳卒中の死因でも、脳梗塞の占める割合が高くなっています。脳梗塞のなかでも、心原性脳塞栓症は重症化しやすく、患者数も増加しています。

こんな心房細動の方は要注意!

心不全など心臓病のある方

高血圧の方

高齢の方

糖尿病の方

脳卒中(脳出血、脳梗塞)の既往がある方

心房細動があって、上記の項目に当てはまる方は脳梗塞を起こす危険性が高くなります。

心房細動の治療法は？

心房細動の治療は、

- 心房細動以外の病気の治療や生活習慣の改善
- 脳梗塞の予防
- 心房細動そのものの治療

の3つに分けられます。

1 薬を使わない特殊な治療

●カテーテルアブレーション

…脚の付け根の太い血管からカテーテル(細長い管状の器具)を心臓まで通し、不整脈が起きないようにする内科的なカテーテル治療



● 心臓ペースメーカー

…心臓に人工的な電気信号を送ることで、心臓の本来の拍動を促す医療機器

2 抗不整脈薬による治療

心臓で起こっている細動を取り除き、心臓の心拍リズムをコントロールするものと、細動が起こったままの状態、心拍数をコントロールするものがあります。

3 抗凝固薬（血を固まりにくくする薬）による治療

血液を固まりにくくして、心臓などに血栓ができるのを抑え、脳梗塞を予防する薬です。

抗凝固薬の種類



ビタミンK拮抗薬
(ワルファリン)



直接トロンビン阻害剤
(ダビガトラン)

抗凝固薬は、医師に指示された量・回数を守って服用してください。

自分の判断で飲むのをやめてしまったり、薬の量や回数を変更したりすると、出血したり、脳梗塞を予防できないことがあります。

心不全などの心臓病のある方や、高血圧の方、糖尿病の方、脳卒中の既往がある方、高齢（特に70歳以上）の方は、脳梗塞を起こしやすいので、薬での予防が必要です。

治療中の生活で気をつけることは？

心房細動はきちんと管理・治療を行えば、決して怖い病気ではありません。以下の点に気をつけましょう。

- 薬は、医師・薬剤師の指示に従って正しく服用し、しっかりと継続する。
- 定期的な検査・受診を欠かさない。
- 規則正しい生活をし、高血圧、糖尿病などの生活習慣病に注意する。
- 医師・栄養士と相談の上、バランスのとれた食事をし、自分に合った運動をする。
- 過度な飲酒は避ける。
- タバコをやめる。
- 十分な睡眠をとり、疲労をためない。



気になることがあったら、必ず主治医に相談しましょう。

講師プロフィール



洛和会音羽病院
高次脳機能障害センター
所長
いのただし
猪野 正志

専門分野

神経変性疾患、代謝・中毒性脳疾患、脳血管障害の診断と治療、神経心理学

専門医認定・資格など

- 日本神経学会認定神経内科専門医／指導医
- 日本内科学会認定内科医
- 京都大学医学部臨床教授
- 京都大学医学部非常勤講師
- 臨床研修指導医
- 医学博士